

米國鐵鋼業調査團報告特輯號に題す

前日本鐵鋼協會々長 山 岡 武

今次大戰前後を通し、日本鐵鋼業は、かなりの長年月の間海外先進國の進歩せる技術から遠ざかつて居つた。終戦後の我が國鐵鋼業の復興の爲には、先進國の新技術の導入、作業の近代化等が痛感せられていた。たまたま終戦後來朝せるストライク調査團、屑鐵調査團の人々から斷片的にアメリカの鐵鋼技術の進歩の一端を知り、又續いて來朝せるヘイス氏、マツクレオド氏、ヒル氏等製鋼及び熱管理技術指導者の人々から日本全國の各製鐵工場の現地に於て懇切なる指導を受けた事は既に御承知の通りである。是等の人々は其の後日本鐵鋼協會名譽會員に推薦された。

然し何としても日本の鐵鋼技術者自身が現地に行き自らの目で最新の技術を學びアメリカの近代的工場を見學し得るならばこれに越したことはないと思つて居た。そこで昨年の4月以來日本鐵鋼協會長として G. H. Q. 及び政府當局に、日本から鐵鋼技術調査團を米國に送つて上記の目的を達成する様懇請した。9月に到り漸く關係方面の了解を得、正式に書面を通産省及び安本當局に提出した。その後連合軍司令部の關係官の好意によつて彼の地との連絡もつき、小平團長以下左記 12 名が行く事に決定した。

第一班 製鋼、壓延班

團長 小平 勇君 (日本製鐵)	田 中 國 雄君 (日本鋼管)	外 島 健 吉君 (神戸製鋼)
富山英太郎君 (日本鋼管)	市田左右一君 (尼崎製鋼)	小 田 助 男君 (新扶桑金屬)
植 山 義 久君 (川崎重工)	和 田 龜 吉君 (日本製鐵)	田畑新太郎君 (工業技術廳)
岡 本 勇君 (日本製鐵)		

第二班 コークス、製鉄班

富山英太郎君 (日本鋼管)	佐藤止戈夫君 (三菱化成)	和 田 龜 吉君 (日本製鐵)
速水多根雄君 (日本製鐵)		

製鋼、壓延班が第一班として2月23日に先發し、續いてコークス、製鉄班が第二班として4月6日彼の地に出發した。今回の一行の視察に當り G. H. Q. の經濟科學局及び天然資源局の關係官の周到なる準備、懇切なる注意等によつて短時日の間に多數の工場を視察し極めて有益なる調査をすることが出來たことは誠に感謝の外はない。

第一班については先に來朝せるヒル氏が、渡米中一行と行を共にし案内指導せられ、又第二班についてはデービス氏が同様指導され非常の便益を得た。又今回の舉によつて米國の進歩せる技術を修得せるのみならず彼我鐵鋼業者の間に深い友情の交りが出來たことも私の心から嬉しく思ふ所である。

第一班は4月23日、歐洲に廻つた市田君、用務の爲に残つた岡本君を除き6名無事歸朝し、第二班は用務の爲に残つた佐藤君を除き先の岡本君を加えて4名5月31日無事歸朝した。佐藤君も二週間後に無事歸朝した。歸朝後の一行の報告會は本協會及び各會社其の他の主催にて全國各地に於て行はれ通計數十回に及びいづれも非常な成果を收めた。今後此等の人々が我が國鐵鋼業の技術の向上、作業の合理化に貢獻する所大なるものあることを確信する次第である。

今回渡米諸氏の報告書を纏め、米國鐵鋼調査團報告特輯號として發刊する事は非常に意義あることにて一般會員諸君に裨益する所大なるものあるを信するのである。

尙本調査團とほぼ同時期に渡米し専ら機械潤滑油の使用法其の他に就て研究せられたる日本鐵鋼協會研究部會潤滑部會委員長殿村秀雄君の報告論文をも本誌に輯録する次第である。

終に臨み、本調査團を派遣するに當り終始 G. H. Q. 及び政府等關係方面と折衝せられたる日鐵渉外部 川崎 勉君を始め各會社幹部並に渉外部の人々に厚く感謝の意を表します。

The recent trip of the Japanese Technical Steel Mission to the United States was realized through the great help of G. H. Q. authorities in Japan and by the deep understanding and assistance on the part of both the U. S. Government and the U. S. Steel Circles toward the Japanese Industry.

We, the members of the Mission, sincerely wish to express our hearty gratitude to those people with the Steel Circles and the people of Japan.

On presenting "Report on the American Iron and Steel Industry", we wish to have the honour of introducing Mr. E. W. Hill and Mr. Philip Simons to the Japanese Steel Circles.

Their names will always recall to our mind, their kindness and strong sense of responsibility which were shown during our stay in America.

Isam Kohira
Chairman of 1950 Technical
Steel Mission